

展覧会：「建築家の色とかたち展」

<概要>

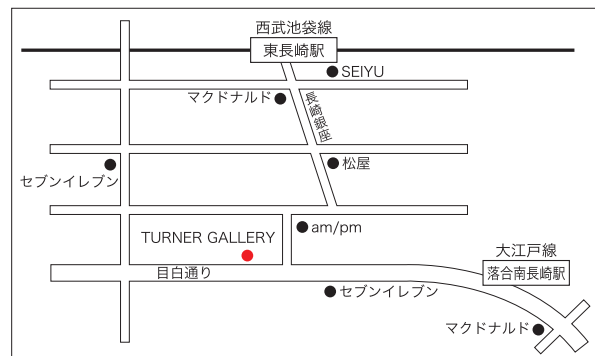
現代建築では、これまでないがしろにされがちだった色彩。この展覧会は活躍中の個性的な5者の建築家が、ダンボールで制作した造形物を各自が選んだキイ・カラーで着色し、建築と色彩についてそれぞれのかかわりかたを表現します。
なお、本展覧会は社会と建築をむすびつけることを目指す団体「SHA-ken」による第一弾の企画となります。

<開催期間> 2010年3月1日(月)～3月11日(木) 11:00～19:00 入場無料
アーティスト・トーク / 3月6日(土) 17:00～18:30 レセプション / 3月6日(土) 19:00～

<会場> ターナーギャラリー TURNER GALLERY 1階および3階
東京都豊島区南長崎 6-1-3 TEL / 03-3953-5155
<http://www.turner.co.jp/gallery/>

[アクセス]

都営大江戸線 落合南長崎駅から徒歩7分
西武池袋線 東長崎駅から徒歩5分



<協賛企業> ターナー色彩株式会社 城東紙器株式会社

<企画主宰> [SHA-ken] www.sha-ken.org

SHA-ken(シャケン)とは社会に開いた建築を考える団体。建築家や建築を学ぶ学生だけでなく、建築に関心をもつ一般の人々が語りあい、新しい建築の機会をつくることを目指す。アートや多ジャンルの領域とクロスオーバーし、地域や社会との連動をも視野に入れた、社会起業として建築を捉える。

<企画趣旨>

ポストモダンの一時の狂騒をのぞけば、20世紀後半以降の建築の多くは、彩りとは無縁の世界にあるといえるのではないだろうか。建築家はあたかも色を回避するかのように無彩色や木の色以外の有彩色の使用にはおおむねストイックである。21世紀に入った頃から建築の色は、少しずつ息を吹き返し始めている。色は居住空間で重要な役割を担う要素であることが設計者の側から、またユーザーの側からも理解され求められている。ホワイトボックスを覆うシンプルな白は、禁欲的な「地の色」ではありながら、他の色を抑圧する作用ももっている。どの文化の造形物にも表われているように、環境の色、文化の色、時代の色があるが、これを統括し抑圧するのがユニバーサル・カラーである白であった。ユニバーサリティやインターナショナルリティを標榜したモダニズムのスタンダードとなる色が白やグレーに支配されたのは必然である。かくして建築における色彩はスケール等と同様に、ある意味でモジュール化され、設計を妨げないマイナー・ポジションに置かれていた。ホワイト/グレー・ボックスは実用的であり、オプティマム(最適)な善意の選択ではありつつも、設計する側にとっては安全でオールマイティな、それゆえ時には非創造的な解でもありうることを再考してみたい。とりわけインテリアでの色の使用においては、色彩の調和を量って、色の諸相のバランスポイントを探し求めるという従来のやり方だけではもはや新しい空間は生まれにくい。それ以外の立脚点を設計者が探し出すことから新しい色彩の冒険と哲学が始まるだろう。それは環境ばかりでなく、ユーザーのエモーションや空間のコンセプト、物語性、空気感などにも深く関わり、よりヒューマンなものとの関係を考慮した色彩を求めることにほかならない。建築家たちの中にはこの作業を意識・無意識に行なっている者もいる。

本展示での建築家たちが、空間と色彩の関係をどう捉えるか、その興味深い回答が見られるはずである。

(文：コーディネーター 高橋正明)

<参加作家プロフィール> (アイウエオ順)**■ KEIKO + MANABU** (内山敬子 沢瀬 学)

内山敬子：ワシントン州シアトル生まれ。オレゴン大学卒業。妹島和世 + 西沢立衛 / SANAA を経て、KEIKO + MANABU 設立。沢瀬 学：岩手県生まれ。横浜国立大学で建築を学ぶ。石田敏明建築設計事務所を経て、2008年までロコアキテクトとしても活動。主な作品「LE CIEL BLUE KOBE」「BLESS」「Heart of Shapes」など。JCD の新人賞・金賞等多数受賞。

■長岡勉 / POINT

東京都生まれ。慶応義塾大学大学院修了。山下設計を経て、1999年にPOINT設立。2003年、クリエイターのためのシェアオフィスでシンクタンクともいえる co-labo の共同運営にたずさわる。「MUSVI」と「ヤマコヤ」で2年連続 JCD 金賞を受賞。

■中村竜治

長野県生まれ。東京藝術大学大学院修了。青木淳建築計画事務所を経て、2004年中村竜治建築設計事務所設立。主な作品「JIN'S GLOBAL STANDARD 流山」「hechima」「blossom」など。JCD 大賞2回、グッドデザイン賞、オランダの The Great Indoors Award など受賞。

■永山祐子

東京都生まれ。昭和女子大学卒業。青木淳建築計画事務所を経て、2002年に永山祐子建築設計設立。「ルイヴィトン京都大丸」で JCD 奨励賞受賞。「丘のある家」で AR Awards (UK) 受賞。主な作品「afloat-f」「CAST」「Urbanprem Minami Aoyama」、国内外の「Anteprima」shop など。

■平田晃久

大阪府生まれ。京都大学大学院修了。伊東豊雄建築設計事務所を経て、2005年に平田晃久建築設計事務所設立。主な作品「イエノイエ」「sarugaku」「oorder」など。「榎谷本店」で JIA 新人賞受賞。著書には「animated」「20XX年の建築原理へ」(共著)がある。

<会場構成>**■長岡勉 / POINT****<コーディネーター>****■高橋正明** (ブライズヘッド代表)

オランダのデザイン誌 FRAME、建築誌 MARK、イギリスの建築誌 AD:Architectural Design 等のコントリビューターとして日本の建築、デザイン、アート情報を海外に発信している。ベルリンでアートを学んだ後、ロンドン・メトロポリタン大学、ニューヨークの F.I.T. とニューヨーク大学でエンヴァイロメンタル・デザインと国際関係論を学ぶ。DIESEL DENIM GALLERY AOYAMA のキュレーターとして建築家の丸田絢子、岡田公彦、KEIKO+MANABU、GENETO、谷尻誠の展示を実現。著書には「建築プレゼンの掟」「Japan The New Mix」他多数、翻訳には「坂茂」「現代建築家」「現代建築家ガイド 111人」他多数。建築と社会を結び団体「SHA-ken」を2009年に立ち上げる。

<本展覧会についてのお問い合わせ先>

有限会社ブライズヘッド (担当 高橋)

〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町524 高橋ビル201

TEL / 03-5287-5358 FAX / 03-5287-5387

<http://www.brizhead.jp>

masa@brizhead.jp もしくは info@sha-ken.org